

大動脈原性脳塞栓症

大動脈原性脳塞栓症は、大動脈の粥状動脈硬化病変などによって、血栓の一部が塞栓性機序で脳血管に到達して発症する脳梗塞であり、最近の我が国において糖尿病や脂質代謝異常や肥満といった動脈硬化の危険因子の頻度が高くなり、注目されています。

➤ 診断はどのようにするの？

大動脈原性脳塞栓症の診断には経食道心エコーや造影 CT などが用いられます。

図 1 と図 2 で、頭部 MR 検査の拡散強調画像で両側性の急性期脳梗塞の所見を認め、頭蓋内外の脳血管や頸動脈病変や心疾患などがみられず、経食道心エコー検査（図 3、図 4）で大動脈弓部に粥腫状病変を認め、大動脈原性脳塞栓症と診断されました。

➤ 治療はどのようにするの？

抗血小板療法とスタチンの内服を行うことが多いです。

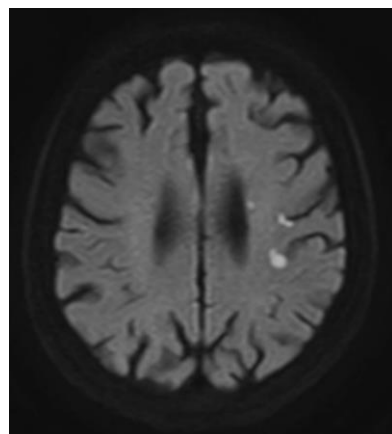
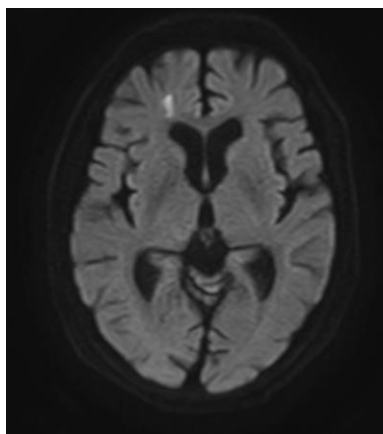


図 1、2：頭部 MR 検査の拡散強調画像で両側性に脳梗塞（図の白い部分）を認めています。

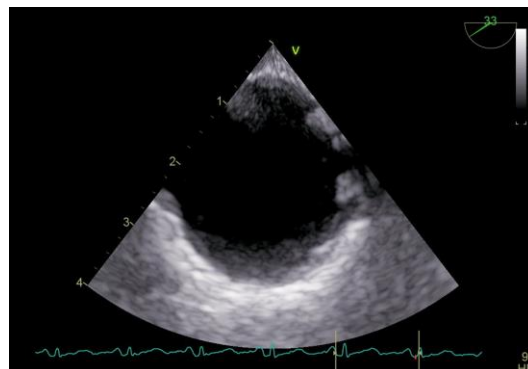
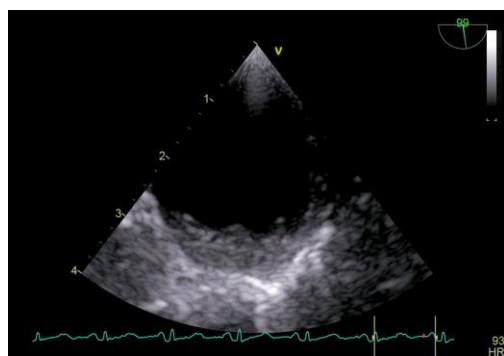


図 3、4：経食道心エコー検査を用いて、大動脈弓部をみています。図 3 (33°) では図の下方方向に低輝度の血栓と図の右方向に血栓が描出され、図 4 (99°) でも図の下方方向に等輝度の血栓が描出されています。